



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

MANO a MANO

～「mano a mano」とはスペイン語で「手から手へ」という意味です～

会員数 556人
 コメディカル 426人
 医師 130人
 管理栄養士紹介登録数 37人

《目次》

～パートナーシップ～

東京医科大学八王子医療センター 松尾 美穂先生…Page 1
 糖尿病スキルアップセミナーのお知らせ…Page 2
 研究会他実施報告…Page 3
 アンケートのお願い・年間スケジュール…Page 4



～パートナーシップ～

当研究会評議員 東京医科大学八王子医療センター 看護師 松尾 美穂

現在私は、糖尿病と腎臓の病棟で勤務しています。毎年4月に看護師で病棟目標を決めますが、今年の目標は「教育という言葉は使わないようにしましょう」にしました。患者さんは自分の生活についての専門家、私達医療者は糖尿病医療・看護の専門家であり、それぞれがその役割を認識し、尊重出来るような関わりを目指したいと考え、下のようなポスターをナースステーションに貼ってあります。テーマは『パートナーシップ』。偶然にも先日、福岡で開催された日本糖尿病教育・看護学会のテーマも「糖尿病患者支援のためのパートナーシップ」～個から連携～ということでした。会長である安酸史子先生(福岡県立大学看護学部)からは、「糖尿病教育における個から連携につながる戦略」で会長講演がありました。いくつか抜粋してお話したいと思います。

1. 糖尿病患者支援の基本となる糖尿病セルフマネジメントの考え方は、糖尿病患者様が生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけていくかが基本となります。医療者がセルフマネジメント支援するためには、糖尿病患者様が持っている力をいかに引き出していか、その支援方法として「エンパワーメントモデル」「自己効力理論」について話されました。
2. 糖尿病患者様とパートナーシップを結ぶために、私たちは一人一人の糖尿病患者様へ思いやりを持ち、自らの信念を大切にしつつ、相手をパートナーとしていかに尊重できるかが問われている。糖尿病患者だからやって当たり前、出来て当たり前ではなく、さまざまな状況の中ではできなくても無理はない。という温かい視点を持ち、ともに支援体制を作り上げていくことの重要性をお話されていました。
3. 糖尿病患者支援を個から連携へと広げていくため、個人としてのスキルアップの方法を話され、個人的取り組みには限界があり、スタートとして糖尿病チーム作りさらにLCDE・CDEの取り組みの必要性について話されました。

西東京地区では、すでにLCDEの取り組みも進みモデル的な役割になっています。今回学会に出席し、地域でも『パートナーシップ』の重要性を感じました。病院、医院、調剤薬局で勤務する様々な医療者が互いの役割を認識し、顔の見える『パートナーシップ』を目指したいと思いました。例えば外来の患者様がインスリン導入になった際に外来で指導し、外来でフォローしますが、「〇〇さん、家の近くの〇〇薬局の〇〇薬剤師さんにわからないことがあったら聞いてみてくださいね。こちらかも連絡しときますから」なんて言えたらいいな、などと思いながら帰ってきました。

4) パートナーシップ

患者と医療者の双方が、それぞれの専門的知識の認識・尊重



第2回スキルアップセミナー2005(医師向け)のお知らせ

担当世話人 当研究会理事 都立府中病院 西田 賢司

この度、多摩地区を中心とした糖尿病に興味をお持ちの先生方を対象に「第2回 糖尿病スキルアップセミナー2005 (医師向け)」を企画いたしました。

昨今新しいインスリン製剤やデバイスが続々と登場しており、インスリン療法も変化しています。また外来でのインスリン自己注射導入も増えてきたことを踏まえ、今回のセミナーではまず第1部でインスリンの種類と作用から保険診療におけるインスリン療法と自己血糖測定的位置付けを講義し、第2部では自己注射指導・自己血糖測定の実技、さらに第3部で症例検討を行う予定です。どうぞ奮ってご参加ください。(事前申込が必要です。)

日 時 : 2005年11月 3日(祝) 10:30~16:00(10:00開場)
場 所 : 武蔵野スイングホール レインボーサロン11F(JR武蔵境駅北口)
参加費(軽食付): 会 員 5,000円 非会員 8,000円(当日入会5,000円)
定 員 : 25名(定員に達し次第締切)
申込み : 申込み用紙に必要事項をご記入の上事務局までFAXでお送り下さい。

※当研究会HP(<http://www.nishitokyo-dm.net/whatsnew.html>)より申込み用紙をダウンロードできます。お申込みいただきますと後日詳細をお送りいたします。

[プログラム]

開会の辞 東京医科大学八王子医療センター 植木 彬夫
第一部 (10:40~12:30)

I. インスリンの種類と作用 座長 都立府中病院 西田 賢司
 渕野辺総合病院 住友 秀孝
II. インスリン自己注射の外来導入 かたやま内科クリニック 片山 隆司
III. SMBG (自己血糖測定) の実際 新川橋病院 調 進一郎
IV. 保険診療におけるインスリン療法と自己血糖測定的位置付け

— 診療報酬とコストの実際 — 伊藤内科小児科クリニック 伊藤 眞一
— 休憩 (軽食付) — (12:30-13:30) 13:00-13:30自己血糖測定機器展示

第二部 (13:30~14:30)

自己注射・自己血糖測定指導の実際 ~西東京糖尿病療養指導士による~

第三部 (14:40~15:40)

症例検討 インスリンの調節法 ~先生ならどうされますか?~

閉会の辞 当研究会理事長 公立昭和病院 貴田岡 正史

担当世話人: 西田 賢司、住友 秀孝、調 進一郎、片山 隆司

問い合わせ先 : NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会
東京都国分寺市本町3-10-22 オリентプラザ402
電話:042-322-7468 ファックス:042-322-7478
W_tokyo_dm_net@ybb.ne.jp <http://www.nishitokyo-dm.net>

研究会他の実施報告

第6回 糖尿病予防講演会

平成17年9月17日 パルテノン多摩に於いて開催されました。



宮崎 滋先生



調布東山病院
院長 戸塚 康男先生

特別講演に東京通信大学内科部長 宮崎 滋先生をお迎えし、「薬で治す？自分で治す？」をテーマに開催いたしました。384名の参加者が演者の話熱心に耳を傾け、活発な質疑応答も行われました。

参加者の方々にアンケートにお答えいただきましたので、一部ご紹介します。

- ・問いかけのテーマで講演会に参加しようと思った。
- ・病気の講演会はよく聞かすが、肥満の話は初めてで大変面白かった。
- ・抄録集でカラーの食事紹介がわかりやすく良かった。
- ・専門用語が若干あり、一般の人には理解されていない部分があると思った。
- ・患者の苦しみを聞いてくださる時間、ディスカッションの時間が欲しかった。
- ・薬を減らすポイントなどが具体的でわかりやすかった。
- ・ストレッチの効果が参考になった。
- ・一人一人で何が出来るのか考えてもらえるきっかけになりそう。

以上のようなご意見がありました。

第38回 例会

平成17年10月1日 国分寺Lホールに於いて開催されました。

第38回例会担当理事 多摩みなみクリニック 宮川 高一

10月1日土曜日、植木先生と私が当番幹事にて、第38回例会を国分寺Lホールにて開催いたしました。テーマは「SDMを地域医療に生かす」ということで行いました。多くの会員の方々は「SDM」といってもご存じなかったと思います。Staged Diabetes Managementとあって、病期に応じた糖尿病の治療のやり方を詳細に「フローチャート」で示したものです。市販されていないのでなかなか入手しにくいのです、www.sdmj.ne.jp にアクセスすると（医師のみ）手に入りますので、是非試してみてください。

当日はまず日本糖尿病療養指導士認定機構理事長、SDM研究会代表の松岡健平先生より「臨床病期に応じた糖尿病診療—SDMの到達点」という講演を拝聴いたしました。SDMに基づき、かつ松岡先生の豊富な臨床経験と「哲学—松岡節」に裏打ちされたすばらしい講演でした。

続いて千葉県立東金病院院長平井愛山先生より「地域連携とSDM—わかしおネットワークの経験から」という講演で、SDMを地域の医師と一緒に勉強会をする中で、さらに電子カルテシステムによる地域連携を進めていったことが話されました。病診連携をダイナミックに推し進めている姿が感動的でした。今後「糖尿病対策推進会議」の発足のなかでどのような地域連携を具体化するのか、それぞれの地域に求められていると思います。その典型をみた思いでした。さらに武蔵野日赤の菅野先生より「病院の立場から」、公立昭和の貴田岡先生より「地域医療の立場から」私より「クリニック、コメディカルの立場から」SDMをどう地域に生かすか報告いたしました。大変有意義でしたが、できれば全員に「SDM」の冊子を普及できればもっとわかりやすかったろうと反省した例会でもありました。



松岡 健平先生



平井 愛山先生



総合討論の様子



会場は満席でした

～理事長より会員の皆様へ～

当法人は平成14年にNPO法人として東京都に認証されてから、会員の皆様の活躍で事業内容を発展させてきました。全国的にもこの活動は高く評価され注目を集めているのはご存じのとおりです。また公的事業についても徐々にその枠組みを広げてきております。

その一環として当法人は理事会の承認を得て経産省の「平成17年度サービス産業創出支援事業」に他の医療機関や企業と協同して応募いたしました。その結果、本年度は調査事業として認められ「個々の糖尿病患者に合わせたテーラーメイド医療の実現のための遺伝子情報活用課題調査」を実施することになりました。

つきましては会員の方々への遺伝子情報活用へのアンケートを行い、その結果を経産省への報告の一部として活用したいと考えております。皆様の個人情報は一切使用しない形となっております。この内容はこれからの糖尿病診療に大きい影響を与える可能性のあるものと考えております。またこのアンケートの回収率は調査の信頼性に直結しておりますので、皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

アンケート用紙は同封の返信用封筒で事務局までご返送ください。
返送締切日：平成17年11月10日（木）



年間スケジュール

◇第2回 スキルアップセミナー2005（医師向け） [Page2、HP最新情報に詳細あり]

※事前申込みが必要です。事前申込みのない当日参加不可。

- 開催日 : 平成17年11月3日（祝） 10:30～16:00
- 場所 : 武蔵野イングホール レインボーサロン11階（JR武蔵境駅北口）
- 参加費 : 会員 5,000円 非会員 8,000円（当日入会5,000円）
- 定員 : 25名（定員に達し次第締切）
- 申込み方法 : 申込み用紙に必要事項をご記入の上事務局までFAXでお送り下さい。
- 申込用紙 : 当研究会HP(<http://www.nishitokyo-dm.net/whatsnew.html>)よりダウンロード

◇第10回 糖尿病療養担当者のためのセミナー [HP最新情報に詳細あり]

※事前申込みが必要です。事前申込みのない当日参加不可。

- 開催日 : 平成17年11月6日（日） 9:50～18:30
- 場所 : 国士舘大学 多摩キャンパス（東京都多摩市永山7-3-1）
- 参加費 : 4,500円
- 申込方法 : 当研究会HP(<http://www.nishitokyo-dm.net/whatsnew.html>)をご覧ください

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

※日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位《二群》：申請中

◇第66回 実践栄養指導勉強会 [HP最新情報に詳細あり]

※事前申込みは不要です。直接会場までお越しください。

- 開催日 : 平成17年11月25日（金） 18:45～20:15
- 場所 : 緑風荘病院併設グリーンボイス 1階ダイルーム
- 参加費 : 実践栄養指導勉強会会員 無料、非会員 500円

※西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：1単位



NPO法人 西東京臨床糖尿病研究会

〒185-0012 国分寺市本町3-10-22 カレントプラザ402 TEL: 042(322)7468 FAX: 042(322)7478
<http://www.nishitokyo-dm.net> E-mail: w_tokyo_dm_net@ybb.ne.jp